



## ゲノム編集（遺伝子操作した） 「トマト」が生産・流通へ??

2020年12月11日、日本国内でゲノム編集食品の販売が認められました。日本国内で最初に流通する作物は“国内で開発され国内で栽培された「トマト」”です。（天笠啓祐「金曜日」1/15号）ゲノム編集食品は環境影響評価も食品の安全審査も必要なく届出をすればいいだけで、12/11に受理されています。

天笠さんの報告から「トマト」の情報を共有したいと思います。

筑波大学で血圧の上昇を抑える「GABA」を多く含むようにゲノム編集、研究されたもの。同大学のベンチャー企業サナテックシード社によると通常のトマトより5~6倍多いと報告されています（「シシリアンルーージュハイギャバ」）。

“特許権使用料”の交渉があるので種子の販売・商業栽培はまだ出来ない。しかし“苗の無償提供”を2021年5月から行うとのこと。提供を受けると各家庭菜園がゲノム編集作物の栽培場所になり自然がめちゃくちゃになってしまいます。

しかも厚労省は2020年11/11ゲノム編集作物の「後代交配種」について届出を義務化せずまったく規制しないことを決定してしまっています。

今、米国内ではゲノム編集作物は「高オレイン酸大豆」だけが流通しています（まだ日本には入っていない）。米国に続いて日本でもゲノム編集食品がトマトを突破口にして自由に栽培され食品として流通してしまう危険性が大です。



ゲノム編集はクリスパーキャス9という方法でDNAを切断するのですが、目的外を切ってしまう“オフターゲット”の危険性は十分に解明されていないし、予期しない毒性やアレルゲンの生成も心配されているのです。それなのに国は国民に遺伝子操作のゲノム編集作物を自由に食べてくださいと栽培・流通を自由に始めようとしています。

私達は命・健康を守るため

①5月ごろから筑波大学発ベンチャー企業サナテックシード社から無料配布されるゲノム編集のトマト苗を栽培することは絶対にやめましょう！

血圧を下げるトマトと単純に喜んで植えてはいけません。遺伝子操作の作物だらけになってしまう一歩になってしまうのですから。

②子ども達の給食の食材に使われだしては遅いです。「絶対にいやだ！」と各教育長・市長に伝えましょう。市長は子ども達の健やかな成長のためにも「ゲノム編集食材を給食の食材に使いたくない。使わない。」と宣言すべきです。

『民主主義と自治そして平和主義』ふじしろ政夫 047-445-9144

\*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。